越中一宮 髙瀬神社

御鎮座二千年の由緒ある古社

初宮詣・七五三詣・厄祓・寿祭（還暦など）

家内安全、交通安全、商売繁昌、安産、合格、良縁成就、病気平癒など各種ご祈願祭を受付ております。また、結婚式、披露宴も受付ております。

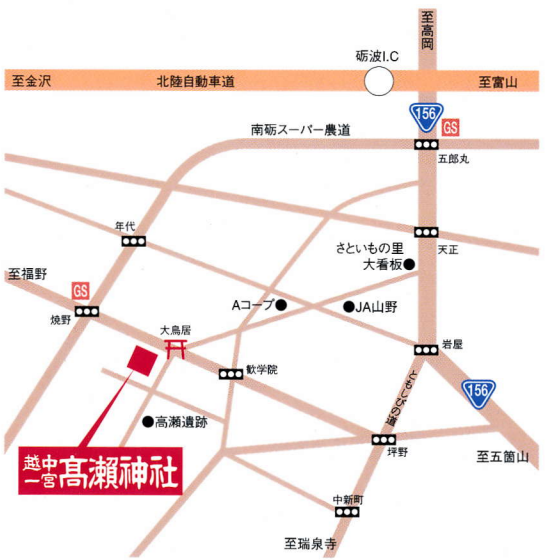
●ご祈願祭受付　午前九時～午後四時三十分まで

交通のご案内

●ＪＲ城端線・福野駅下車。

●バス（庄川町行）又はタクシー利用で約７分。

●お車をご利用の場合は北陸自動車道砺波インターから約15分程。



越中一宮 髙瀬神社

〒932-0252 富山県南砺市高瀬291番地

TEL (0763) 82-0932　FAX (0763) 82-3204

http://www.takase.or.jp

御祭神の御神徳

主祭神の大国主命は北陸諸国の国造りをなされたことから「国土開拓・農耕の神」として崇められているほか、「福の神・結びの神」として開運招福・家内安全・商売繁昌などを掌る神様として広く知られています。また、神話「因幡の白うさぎ」で不心得者の兎を改心させ、怪我を治療されたことから「医薬医療の神」としても崇敬されています。

天活玉命は「無病息災・延命長寿の神」として、五十猛命は「農林殖産・交通安全・厄除・病気平癒の神」として信仰されています。

御社殿

千鳥破風と唐破風が巨木の森に調和して建つ当神社の御社殿は、国費をもって昭和十七年より数ヶ年の計画で建てなおしされる予定で工事が始まりましたが、基礎工事が終了した昭和二十年八月終戦を迎え、GHQ(極東軍指令部)の指令によって国費による建立が中止となりました。往古の面影は消滅し、参拝する人の数は皆無といった状況でしたが、地方の崇敬者有志の方々が多額の浄財や樹令数百年の銘木を寄進され、多くの方々の社殿建立の情熱にさ、えられて、昭和二十二年に御本殿(流造)、翌年に拝殿(入母屋造)、更に昭和六十二年に唐破風の向拝殿が完成し、鎮座二千年の歴史を偲ぶ御社殿の完全な竣功を見るにいたりました。

御祭神

(主神)大国主命(おおくにぬしのみこと)(大己貴命(おおなむちのみこと))

(配祀)天活玉命(あめのいくたまのみこと)

五十猛命(いそたけるのみこと)

(末社)功霊殿・高瀬稲荷社

神社の歴史

御鎮座の年代は、景行天皇の御代と伝えられており、太古悠遠の時代に属します。

天武天皇の御代に蝗害により勅使を遣わされてより後、光仁天皇宝亀十一年(七八〇年)従五位に、さらに清和天皇貞観元年(八五九年)正三位に、安徳天皇治承四年(一一八〇年)に正一位に列せられました。当時は多くの社領荘園を有していましたが、現在は「神子畑」という地名だけ残っています。また、「大宮司」「勧学院」など往時の面影を偲ぶ地名も残っています。

戦国時代に入り、往古の繁栄は何処へ。社頭は荒廃し、人心も乱れた時代でした。江戸時代になると、加賀藩主前田家の篤き崇敬の誠心のもと、御神威は高揚し、明治以降は明治六年に県社、大正十二年に国幣小社となり、翌十三年、摂政宮(昭和天皇)の御使が御参拝されるなど皇室国家からも篤く待遇されました。昭和二十年に大東亜戦争終結となりましたが、戦前戦後を通し、この地域の守護神として崇敬され今日に至っています。

祈年穀祭

稲作をはじめ農作物全体に害虫の被害がなく、豊作であるよう祈る祭りです。

穀倉地帯、砺波平野の真中に鎮座する当神社は農耕に関する祭りが多く、天武天皇の御代には蝗が大量発生し、甚大な被害が出たため朝廷から勅使が参向され、祭儀を行い、夜、松明をたいて蝗を退治したとの先例によって現在も六月十日に祭儀が斎行されています。

祈年穀祭の遣幣使祭詞

功霊殿（末社）

御殿に隣接する功霊殿は日清・日露戦争から大東亜戦争まで、砺波地区から出征された護国の英霊と、当地方開拓の功労者あわせて六、四〇〇余柱をお祀りしています。功霊殿本殿は当神社の旧本殿で、天保七年に建立された井波彫刻の粋を尽したものです。また、文化財の指定を受けています。

献穀田

毎年春早々に種籾のお祓いからはじまる献穀田は、井波地区の中核農業士会の方々の奉耕によって行なわれております。御田植祭、抜穂祭の神事には早乙女が奉仕します。

社務所と境内

境内に茂る樹令数百年の杉の巨木の森は過去の歴史を語りかけ、四季を通して野鳥の声が森林の中に響き、参拝者の耳を楽しませてくれます。境内樹木の若木は各地から崇敬者の方々が植樹されたものです。

大祓

節分

髙瀬神社のお祭り

毎月一日・十三日	月次祭	
一月一日	歳旦祭	
一月三日	元始祭	
一月七日	昭和天皇祭遙拝	
一月二十五日	天神祭	
二月三日	節分祭	
二月十一日	紀元節祭	
二月十七日	祈年祭	
三月八日	鎮火祭	
三月春分の日	春季皇霊祭遙拝	
四月三日	神武天皇祭遙拝	
四月十日	春季祭	
四月二十九日	昭和祭	
六月十日	祈年穀祭	
六月十九日	風宮例祭	
六月三十日	稲荷社例祭	
仝	夏越大祓	
七月二十二日	除熱祭	
八月十六日	中禮祭	
九月十三日	例祭	
九月秋分の日	秋季皇霊祭遙拝	
十月第一日曜日	村祭り	
十月十七日	神嘗祭遙拝	
十一月三日	明治節祭	
十一月十三日	神明宮例祭	
十一月十五日	七五三祝祭	
十一月二十三日	新嘗祭	
十二月二十三日	天長節祭	
十二月三十一日	師走大祓	
仝	除夜祭	